

TTC 提案山行実施記録表

2012年7月26日 報告者: 三村義昭(1/3)

山行名	北ア 折立から薬師岳 [2926m/富山県]					
実施日	平成24年7月20日(金)~7月22日(日) 2泊3日 マイカ2台利用					
天候/参加人員	天候: 実行欄記載 レベル: ★★ 参加者: 申込9名/実施9名 (男3名/女6名)					
パーティスタッフ	CL/計画/写真:、SL、会計:、救護:、 ドライバ: [TEANA] (正)/(副)、[PRIUS] (正)/(副) スタッフ名削除					
参加メンバ	A班: (班長) B班: (班長) 氏名削除					
費用	<p>約28,200円(交通費¥9,567+宿泊費¥17,700+雑費¥722+TTCカンパ金¥211)</p> <p>内訳: [交通費]マカ使用料(@10X800x2台)¥16,000、ドライバ謝礼(@5000x2x2台)¥20,000、ガソリン代: [TEANA] (@135x800/5) ¥21,600、[PRIUS] (@135x800/8) ¥13,500、高速料金(相模湖-松本) 往路通勤割(@2750x2台) ¥5,500、帰路休日割(@2000x2) ¥4,000、安房トンネル通行料(往路:@550x2台+帰路@400x2) ¥1,900、有峰林道通行料金(@1800x2台) ¥3,600/交通費計¥86,100/一人当たり交通費¥9,567、[宿泊費]有峰ハウス(宿泊代@5400+夕食@3000+朝食@500) @8,900x9=¥80,100、薬師岳山荘(@8800x9) ¥79,200/宿泊代計159,300/一人当たり宿泊費¥17,7007、[雑費]ひらゆの森入浴料金(@500x9人) ¥4,500、ビール中2本(有峰ハウス) @500x2=¥1,000、通信費¥1,000/雑費計: ¥6,500/一人当たり¥722/支出合計¥251,900/一人当たり27,989</p> <p>集金(@28,200x9) ¥253,800-支出 ¥251,900=残金¥1,900 (カンパ金会計へ)</p>					
一人当たり: 28,200円						
TTCカンパ金 ¥1,900						
歩行/行動時間	折立-薬師岳山荘+頂上往復(7/21)			薬師岳山荘-折立(7/22)		
	歩行時間	休憩時間	行動時間	歩行時間	休憩時間	行動時間
ガイドブック	6:40+1:50	—	—	5:20	—	—
計画	7:00+2:00	2:00	11:00	5:20	0:10	5:30
実行	6:10+1:38	2:11	9:59	4:49	1:08	5:57
過去の実績値*	5:51+1:32	2:29	9:52	-	-	-
*1998.8.8-8.12の記録 実行コースタイム記録						
◆7/20(金) 天候曇後雨(厚木-有峰ハウスまで:有峰ハウスに前泊/走行距離:約340km)						
(PRIUS車) (7:30集合)中央道(トイレ休憩) (トイレ休憩)						
厚木愛甲=(森の里・赤羽台・本厚木駅経由)=相模湖IC==談合坂SA==諏訪湖SA==松本IC==道の駅風穴の里==						
5:37 5:45 6:00 6:05/6:13 7:08 7:17/7:30 8:44/8:58 9:17 9:53/10:07						
(昼食) (食料購入) (トイレ休憩) 林道高山-大山線/有峰林道東谷・西周線 入浴 16:15~						
安房料金所=平湯BT==スハ JA 奥飛騨=道の駅上宝==駒止橋==東谷料金所==有峰ハウス(泊) 夕食 18:00~						
10:38 10:41/11:25 11:38/11:50 11:54/12:05 12:24 13:05 13:43到着 就寝:19:30~						
◆7/21(土) 天候:終日雨時々強雨(累積標高差:登り1700+220m/下り320m/歩行距離9+2.5km)						
起床4:00/朝食5:00~ 0:57 0:45 0:46 0:22 1:14 (昼食) 0:24 0:49 0:53						
有峰ハウス==折立登山口——(小休止)——三角点——2011mベンチ——2133mベンチ——太郎平小屋——薬師峠——薬師平——						
5:53 6:05/6:15 7:12/7:18 8:03/8:15 9:01/9:10 9:32/9:42 10:56/11:32 11:56 12:45/13:01						
0:56 (空身行動) 0:42						
—薬師岳山荘——薬師岳頂上——薬師岳山荘(泊) 夕食17:00~/就寝 19:30~						
13:54/14:07 15:03/15:22 16:04到着						
◆7/22(日) 天候:雨後晴たり曇時々雨(累積標高差:登り100m/下り1700m/歩行距離9km)						
起床3:50/朝食5:00~ 0:37 0:37(給水) 0:30 0:39 1:04 0:52 0:30						
薬師岳山荘——薬師平——薬師峠——太郎平小屋——小屋2.2/三角点2.0kmベンチ——三角点——(小休止)——折立登山口==						
5:41 6:18/6:28 7:05/7:15 7:45/8:08 8:47/8:54 9:58/10:12 11:04/11:08 11:38/12:14						
(ツバの昼食) (農産物購入) (温泉入浴/お茶) (スナック購入) (夕食/解散)						
=東谷料金所==山之村夕顔の里==杖石農産物直売所==平湯ひらゆの森==波田スナック直売所==松本IC=諏訪湖SA=						
12:55 13:13/13:53 14:18/14:24 14:50/15:50 16:55/17:10 17:21 17:44/18:18						
PRIUS車(中野トンネル付近から相模湖ICまで事故渋滞70分)						
相模湖IC== (森の里・赤羽台経由)=厚木愛甲						
20:55 22:24帰着						

2年前立山から薬師岳まで縦走する計画が実施直前の台風接近で涙をのんだ経緯があり、機会があればもう一度登ってみたいと思い、夜行バス利用の富山市経由ではなく、マカを利用して、岐阜県神岡から登山口の有峰にアクセスするルートと登山口に唯一ある富山県営有峰ハウスに前泊するプランを研究してあった。そこに、8/4からのTTC提案山行「加賀白山」で、日本百名山完登を迎える手筈であったTTC創立メンバーのSさんご夫妻の99座目となる薬師岳登山が、白山より遅い8月中旬にずれ込んでしまうという話を聞き、少々お節介ではあるが、梅雨明け一番の7/20(金)~7/22(日)/2泊3日行程でのマカ利用・登山口前泊の薬師岳に最も楽に登れるリスクと体力負担最少の計画を立案、4月例会に提案山行として急ぎ追加提案し、有峰ハウスに10人分の宿泊予約をした。

5月例会時の参加申し込みで、Sさんご夫妻を含む、男性3名/女性6名が手を挙げたことにより、マカ2台にて、私の新提案にて実施することが固まった。実は14年前の8月、私がCL、SさんがSLのコピで、薬師岳から黒部五郎岳〜笠ヶ岳に夜行4泊5日で縦走する山行に出発する3時間ほど前、Sさんの運転するマカの側面に他車が衝突するという交通事故に遭われ、Sさんご夫妻が突如参加断念の緊急事態となってしまったが、残った10名で予定のコースを走破した。それ以来、Sさんご夫妻は薬師岳との出会いの縁が薄く、今日に至ってしまったようだ。その時の10名のメンバーのうち、CL夫婦とMさんの3名が今回も参加することになった。

◆7/20(金)：数日前に梅雨が明け、台風6号も7/19には朝鮮半島付近で消滅して、7/20以降、晴れ基調のまずまずの天気になるとの予報であったが、直前になるにしたがって、段々天候予報が怪しい方にシフトし始める中、出発の日を迎えた。本日は登山口の有峰ハウスに夕方までに着けばよいだけなので、あちこち道草しながらのドライブ。旧上宝村栃尾からR471を旧神岡町に向かい、朱色のアチ橋駒止橋の手前を右折して、大規模林道「高山-大山線」に入り、しばらく双六溪谷を走ったのち標高1000mの天空の村「山之村」の集落を抜け、岐阜/富山県境の飛越トンネルを抜けると有峰林道の東谷料金所。ここで通行料金1800円を支払って、有峰林道有峰東谷線から西周線に入り、有峰湖を右下に見ながら走り、片側交互通行の有峰ダム堰堤の上を対岸に渡って少し登ったところに、広大な駐車場と緑地公園の傍らに本日の宿「富山県営有峰ハウス」があった。木の香漂う木造2階建てで、客室10室/定員30名の豪勢なロッジであった。早速食堂の囲炉裏を囲んで、富山の銘酒「銀嶺立山」を嗜みながら明日の天候を心配した。外は時折ドシャブリの雨、正面に望めるはずの薬師岳の姿はない。TVのニュースでは、富山県の各地で、時間雨量100mmを越す豪雨に見舞われて、北陸地方に大雨洪水注意報が発令され、明日もこの状態が続くとしきりに放送していた。

3000円コースの夕食の膳には、食べきれないほどの料理が並んだ。明日朝の折立登山口出発のタイムリミットは8:00am。この時間まで待っても、ドシャブリ状態が続く場合は、登山開始を一日順延して、有峰ハウスに待機する選択肢もありうるということをメンバーに説明して了解を頂いて眠りについた（有峰ハウスには9名何とか宿泊できることを確認）。一晩中、ドシャブリの音としとしと雨の音が交互にやってきて、雨音が止むことはなかった。

なお、岐阜県神岡町から富山県有峰への山越えルートは、相当の悪路をイメージしていたが、センターラインのある立派な舗装道路ですれ違った車は10台以下。途中走行した国道471号よりよほど立派で走りよかった。

◆7/21(土)：前夜用意してもらったオキギリを食堂で食べ、6:00AM前に有峰ハウスを車で出発、至近の折立登山口に向かった。折立駐車場に20-30台の車はあったが、1,2組の登山者がいるだけで閑散としていた。

完璧な雨装備に身を固めて登山口に立った。雨は昨夜と変わらず、相変わらず少雨とドシャブリを繰り返していたが、意を決して出発した。1871mの三角点までは、標高差約550mのブナ林とツバキ林の急坂が続く太郎坂の登りを2ピッチ/1:48で登りきった。ここから先、太郎平小屋までは距離3.2km/標高差460m、アップダウンのある緩い登りで、3ピッチ/2:40を要した。登るにつれ灌木が減り、広がる草原にニッコウキスゲがレズンの花を競い合うように見事に咲き誇っていた。登山道はよく整備されているとはいえ、石ゴロや雨水で掘れてしまった箇所もあり歩きよいとは言えない。辿り着いた太郎平小屋の軒先の休憩卓を借用してのランチタイム。うどんやラーメンを頼んだメンバーもいたが、大半は持参の食糧や有峰ハウス製のオキギリを食べた。太郎平小屋に昨年屋外トイレが完成し(チップ100円)、靴を脱がなくてもトイレに行けるようになったと女性陣は大喜びだった。相変わらずの雨とガスで眺望が得られない中、太郎平のお花畑の中の木道をテント場のある薬師峠を越えて、薬師沢の登りにかかった。テントは2,3張。出会う登山者はほとんどいない。薬師沢のガレの登りは、折からの大雨で沢の本流を遡行していると思えるほどの水量があった。それでも登山道の際には、シラビナイ、キカサリ、サカサ、チンゲルマ、ウツクサ、コウキカミ等が競って見事に咲き誇っていた。

登り着いた山上の別天地薬師平に人影はなく、ただ草原と池塘が広がるのみ。大きなケルが1個積んであったが、確か14年前にはあったはずの1963年冬にこの尾根から黒部の谷に消えた愛知大山岳部13名の遭難死の慰霊碑はなく、当時の遭難を伝えるものは何も見当たらなかった（その代わりに薬師岳頂上手前の避難小屋傍と折立登山口に13人の立派慰霊碑があった）。

この先、薬師岳山荘までの登りは、小雪溪を少し登る以外、雪上を歩くところはなく、山荘の案内通り軽アイゼンを使用せずに済んだ。雪溪が消えたばかりの斜面には、高山植物が一斉に芽吹き、いち早くショウジョウバカマが花を咲かせ、チンゲルマ、ウツクサの白花の群落の中にコウキカミのピンクがアクセントを付けていた。

昨年8月新築したという薬師岳山荘は、標高2710mの昔の位置に、レズン色の2階建になって、我々の到着

を歓迎してくれた。おいしい焙じ茶の welcome drink で出迎えてくれた山荘の経営者堀井よし子さん (3/3) は相変わらず若々しく美しかった。14年前は、若くて美しいピアノの先生だった堀井さんは、数ある北アルプスの山小屋の経営者の中でも、マドンナとして評判の女性だった。あれから14年たった今日でも、容色まだまだ衰えず、気品のある女性であった。

登山口の折立を6:15AMに出発、薬師岳山荘に7時間40分を要し、1:54pmのまづまづの時刻に到着できた。この天気では明早朝のご来光は期待できないことから、今日中にもうひと頑張りして、薬師岳頂上を踏んでしまうことにした。そのためには、一端雨具を脱いで山荘に落ちてしまうと薬師岳頂上に登る意欲がなくなってしまうことから、ザックを小屋に預けて、サブザックに必要なものだけを持って、そのまますぐに山頂に向かうことにした。ザラ場の急登を一步一步ゆっくりとした足取りで登って、最初に到着したピークには形ばかりの姿で残る避難小屋がある。そこからさらに岩稜西側をやや巻くようにして北上すること約30分で、数体の薬師如来を祀った社のある標高2926mの薬師岳頂上に到着だ。頂上到着直前にすれ違った中高年男性4人組の3人(一人は避難小屋から引き返した)のみで、その後、薬師岳山荘に戻るまで、一人の登山者の姿もなかった。前述の4人組は、昨晚、有峰小屋に宿泊した3組の団体の一組で、太郎平小屋に宿泊予約し、空身で往復5.5時間の薬師岳頂上ヒートン登山にやって来た。この分では太郎小屋に戻るのは6:00pm頃になってしまうだろう。我々TTC9名パーティは一人の体調不良者を出すこともなく、間断なく降り続く雨の中を8時間かけて全員元気に念願の薬師岳頂上に登り切れたことを、まづ最初に薬師如来に感謝の念を込めて、お礼のご挨拶をし、頂上標識を挟んで、記念写真を取り合った。日本百名山99座登頂を無事果たしたSさん夫妻と薬師岳初登頂の2名のMがの登頂を、CLが持参した生パインアップルでお祝いし、その喜びを全員で分かち合った。

薬師岳山荘に戻ると、山頂登山出発前はあんなに閑散としていたのに、登山者であふれかえっていた。大雨で今朝から有峰林道が通行止めになり、予定通り入山できない登山者続出で、宿泊予約に多くのキャンセルが出たと嘆く堀井さんの話であったが、小屋はどうしてどうしての満員御礼だった。我々TTCが案内された部屋は、12畳くらいの個室。なにしろ新しい小屋は、木の香が漂い、寝具もトイレも清潔そのもの。14年前にTTCが宿泊した際は、トイレの臭さが忘れられないと、当時を知る3名のベテランMがの言。とにかく乾燥室に濡れたものを持ち込み、何とか乾かそうと余念がない女性陣。男性Mがはギンギンに冷えた缶ビールで今日の健闘をたたえ合って乾杯! TTCは5:00pmからの第1回目の夕食。相変わらず手づくりの料理は、豪華とは言えないが空腹を満たすのに十分な内容だった。7:30PM頃全員布団に入ったが・・・我々の隣の大部屋に20数名の中高年登山者の団体が陣取り、酒を飲んで大声で騒いでいて寝付かれない。やむなくCLが代表して、少し静かにするようお願いに行った。消灯の9:00PMまでは大声を出しても騒いでもよいと勘違いしている困ったMがのMがの達だ。

◆7/22(日): 山荘宿泊の登山者の大半は、4:00AM前に薬師岳頂上に向かって出発し、山荘内に静寂が戻った。5:00AMからの朝食をゆったり済ませてから、折立登山口に下山にかかった。天候は小雨交じりの霧であったが、時折、ガスが切れて青空が覗き、大勢の登山者が立つ薬師岳頂上が垣間見えることもあった。薬師岳まで戻ると、草原を飛び跳ねる兔の姿を見た。こんな気象条件ならライチョウが出てきてもよいのだがと話している最中に、7羽のヒゲを連れた母親ライチョウがご挨拶に現れた。ヨツバシガマの紫が目立って多い太郎平のお花畑に降り立つと、行く手に北の俣岳から黒部五郎岳に続く稜線が雲間に姿を現したが、槍ヶ岳の姿は勿論、黒部五郎岳の頂上もとうとう姿を現さなかった。振り返って見上げる薬師岳も頂上稜線の一角までは姿を見せるが、山頂はついに姿を見せることはなかった。青空が覗いて陽が射したかと思うと、一瞬のうちにガスに閉ざされ、雨が降り出すなど、目まぐるしく変化する天候が下山するまで続いた。

帰路立ち寄った太郎平小屋で、昨日大雨で通行止めになった有峰林道の状況を尋ねると、昨日夕方に通行止めが解除になり、本日は通行できるとのこと、安どの胸をなでおろした。太郎平から昨日登った道を折立に向かって下山して行くと、昨日出会った登山者の何十倍もの登山者が続々と登ってきた。6:30AMの有峰林道ゲート開門を待って、折立登山口から一斉に登ってきた登山者だ。薬師岳山荘を出発してから約6時間かかって、午前11時半過ぎ、無事に折立登山口に降り立った。

有峰林道を平湯目指して車を走らせている途中で、カモガが1頭我々をお見送りに出てきてくれた。ほどなくして、今度は林道の真ん中をツバシガマが我々に背中を向けてツバシと歩いている姿に出くわしたが車が20m位まで近づくと顔を見せることなく、草むらに消えてしまった。有峰湖周辺は大自然豊かな山城のようだ。

途中、山之村夕顔の里で、手打ちのダツツガでお腹を満たし、平湯BT隣の温泉施設「ひらゆの森」で汗を流し、松本IC近くの馴染みのスバ農家で格安のスバを手に入れ、諏訪SAで夕食を摂り、会計報告済ませて解散とした。中央高速は事故渋滞が重なり、いつも通り時間がかかったが、10時過ぎには厚木に帰り着いた。

◆14年前の山行と比較して;14年前は男2/女8で平均年齢56.8歳(最年長67歳/最年少50歳)の壮年パーティ、今回は平均年齢68.0歳(最年長72歳/最年少60歳)の8人パーティ。前回より平均年齢11歳upのシニアパーティであったが、前回より7分増しの9時間59分で、強雨の降りしきる中、全員そろって薬師岳頂上に立った。それに対し、前回は富山まで夜行バス、折立までバスを乗り継いで夜行山行。1名は薬師岳山荘でダウン。もう1名は避難小屋でリタイ、薬師岳頂上を踏めたのは10名中8名のみ。このクオリティの大差は、夜行でヘビーになりながら登ったのと、登山口に前泊して休養十分で登ったことによる差異であり、登山口前泊の効果は絶大である。